

There is (are) + 不特定の主語 + 場所を示す語句「～に～がある (いる)」

日本語では、 「テーブルの上に一本のペンがある。」も
(不特定の主語)

[テーブルの上に私のペンがある。]も正しい表現ですが、
(特定の主語)

英語では、 ○ There is **a pen** on the table. は正しいが、
(不特定の主語)

× There is **my pen** on the table. は間違いです。なぜならば英語には
(特定の主語)

There is (are) の後ろは、不特定の主語 + 場所を示す語句が来るという文法があるからです。

例えば、 ○ There is **a spider** in the kitchen. (キッチンにクモがいる。) は正
しいが、 (不特定の主語)

× There is **the spider** in the kitchen. (キッチンにそのクモがいる。) は
間違いです。 (特定の主語)

○ There are **two students** in the library. (図書館に二人の学生がい
る。) (不特定の主語)

は正しいが、

× There are **my two students** in the library. (図書館に私の二人の生
徒がいる。) は間違いです。 (特定の主語)

定冠詞の theとか、**代名詞の所有格の my**などのついた**特定の主語**を使って、
「そのペンはテーブルの上にある。」とか、「私の二人の生徒は図書館にいる。」と言いたい
時は、 **The pen** is on the table. とか **My two students** are in the library.
と言わなければならない。